

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ライオン（バンジー）		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年2月13日		～ 2026年2月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士・児童指導員・看護師・作業療法士・理学療法士など多職種がいるので、子どもの個性に合わせた活動や介助、医療的ケアを行うことが出来ています。	クラス会議やケースカンファレンスを定期的に行い、子どもや家族の情報を共有し、支援の方向性の一致を図っています。朝夕のミーティング、連絡ノートの活用、日々の記録の充実を図り、支援内容の統一と継続性を大切にしています。	さらに、多職種でクラス会議やケースカンファレンスが実施できるように工夫していきます。迅速に支援へ反映できる体制づくりを目指します。
2	送迎時は福祉車両を使用し、看護師が同乗することができるため、バギーを使用している子どもや人工呼吸器を使用している子どもなど医療的ケアが必要な子どもも利用することが可能となっています。	リフトの操作や、バギーが多いときの座席の収納の仕方などを送迎に関わる職員が行えるよう動画で共有し練習しています。機器の点検や同線確認を行い、安全確保に努めています。	緊急時対応の確認を進め、安全な送迎体制を意識していきます。送迎対応可能な職員・パートさんを増やし、安定して送迎対応できるようにしていきます。
3	年代別や階層別、職種種など研修の機会が多くあり、人材育成に力を入れています。	法人全体で各種研修の機会を定期的に設けています。研修後には伝達勉強会があり、研修に参加した職員から学ぶ機会がことができます。日々の支援に活かしています。	外部研修や事例検討を取り入れ、より実践的な学びを深めていけるよう努めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他クラスとの交流はありましたが、その他の地域の子どもの交流機会は限られている状況です。	児童の体調や医療的ケアの必要性、感染症の流行、天候の影響などから、外部との交流機会の確保が難しい場合があります。	情報共有をこまめに行い、交流を図っていきます。感染症の少ない気候の安定している時期に交流を図ることを検討していきます。
2	バギーや座位保持椅子、リハビリに使う器具等の数により、活動スペースに制約が生じる場合があります。	児童によってはバギーや座位保持椅子等を事業所内で保管しており、さらに活動に応じてリハビリ器具等も使用するため、同線や活動スペースの調整が必要となる場合があります。	用具等の配置や使用時間を工夫し、整理整頓を行ない、安全かつスムーズに活動できる環境づくりに取り組んでいきます。
3			